

## 【研究1 教育研修部】

### 「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る指導に関する調査研究（第2報）

#### —対話による探究的な言語活動の視点から—

##### 研究概要

「対話を取り入れた授業改善を行うことで、個の学びが深まる」と仮説を立て、昨年度から調査研究を進めてきた。

「対話」をどのように授業に取り入れることで「個の学び」が深まるのか、授業改善を通して有効な手立てを吟味し、子供の姿や発話・発言、記述を基に、学びが深まったかどうかを検証した。

本調査研究では、「対話による深い学びの充実」とは、「対話を通して、根拠と理由を基に論理的に考え、表現する力を育成すること」と捉えている。

ペアやグループ等の少人数での対話の場において、子供が必要感をもって関わり合いながら様々な考えを知り、自分の考えと比較したり、関連付けたりすることで、学びを深めることができるようにしたいと考えた。

そこで、1年次から対話の場における「聴く」活動に焦点を当て、聴き合うことで学びを深めるための対話スキルの育成に取り組んだ。「話を聴くときの態度」「友達のとらえと関わり合うための聴き方」「関連付けや意味付けにつながる聴き方」等の対話スキルを育成するために、本調査研究では「自己評価カード・相互評価カード」を開発した。これらのカードを活用して、「聴き合う」スキルに関わる自己評価を継続したことで、子供自身がスキルを意識して対話をするようになった。

2年次は、こうした対話スキルを生かして、さらに対話の質を高め、教科のねらいにつながる深い学びを目指して実践を重ねた。

その結果、必要感のある対話にするための「問い」、関わり合いを深める対話にするための「情報共有の手立て」、学びを深める対話にするための「対話のねらいの明確化」等が、対話の質を高める上で有効であることが分かった。さらに、自己評価等の振り返りの方法も工夫したことで、対話による学びを個の学びに生かすことができた。子供の発言や記述から「叙述や資料から根拠を示す」「自分の考えの理由を説明する」等の姿を捉えることができ、個の学びの深まりを確認することができた。

また、2年間の取組から、「個の学びを深める対話」にするための様々な手立てを取り上げ、学校現場で活用しやすいように、参考例としてシートにまとめた。

##### <キーワード>

個の学びの深まり 対話の質を高める手立て 対話による学びを促進する評価